

目指す生徒像	自 律 礼 節 を 重 ん じ、 不 撓 不 屈 の 気 概 を 持 っ た 生 徒 敬 愛 豊 富 な 人 間 性 を 持 ち、 自 他 を 敬 愛 す る 生 徒 進 取 勤 労 を 重 ん じ、 時 代 に 対 応 す る 実 践 力 を 身 に つ け た 生 徒	教育目標 (1) 水産・海洋の専門的知識・技術を身につけ、社会に貢献できる人間を育成する。 (2) 水産・海洋教育をとおして豊かな人間性を育み、自他を敬愛するよりよい社会の形成者を育成する。 (3) 「自ら学び、探究する」力と態度を身につけ、学びを継続することのできる人間を育成する。	【めざす学校像】 地域と共に・地域に伝える・魅力と活力ある浜田水産高校
--------	--	---	--

評価計画				自己評価			外部評価					
重点目標	短期(本年度)努力目標	目標達成のための方策	担当 及び 主管	取組と達成状況	評価 達成度	改善策	学校関係者評価4名					提言・コメント
							A	B	C	D	不明	
1. わかる・できる授業の展開	① 新学習指導要領、新しい学習ツール(一人一台端末など)に対応した適切な授業と学習評価を行う。	・新しい学習ツールに対応した適切な授業を行う。 ・公開授業を通じ、ICTスキルの向上を図り、授業改善に繋げる。 ・新学習指導要領に対応した適切な学習評価を行う。	教務 各科	・1学期は学習評価、2学期はICT機器の活用など、目的を持って公開授業を実施することができた。 ・観点別評価について、見直しを持って指導・評価することができ、大きな混乱はなかった。	B	・公開授業のみならず平素から授業を見学し合い、授業改善に努める。 ・今年度と昨年度の評価を比較し、評価方法が適切であったか検討し、次年度に繋げる。	4					・生徒一人一人に対してのきめ細やかな指導により学力が向上していくことに期待する。
	② わかりやすく、きめ細やかな授業を実践し、基礎学力の定着および学力の向上を図る。	・目的を明確にし主体的な授業を行い、ICTを利用した授業を展開する。 ・生徒の実態をふまえ、ICTも活用しながら全ての生徒にとって「わかる」指導方法を工夫する。	教務 各科	・実習では、モニターを活用して分かりやすい授業を心掛けた。また、端末を使用し、授業の振り返りなどを行った。 ・学力や学習習慣がさまざまな生徒集団に対して、授業内容の工夫や必要に応じた個別指導も行いながら、基礎学力の定着を図ることができた。	B	・生徒用端末も導入され、ICTの操作方法は浸透してきた。授業時に継続して活用するとともに、今後はより効果的な活用方法を模索する。	3				1	・ICTの活用は、今後社会に出て必須となってくる。学生の頃から操作に慣れることで将来役に立つと考える。 ・1月の課題研究発表会に参加し、生徒のユニークな発想が多く見られ、課題解決に向け主体的に取り組んでいる姿が印象的であった。
2. 社会人として必要な資質の確立	① あいさつ、返事を大切に、コミュニケーション能力の育成を図る。	・全校生徒が取り組めるあいさつ運動を行う。 ・普段のあいさつや時間を守るなど社会人として必要な資質の育成を図る。 ・実習をとおして生徒の規範意識を醸成する。 ・生徒の会活動や部活動の活性化を図る。 ・基本的な生活習慣を身につけさせる。生徒一人一人の健康意識の向上を図る。	生指 舎務 各科	・挨拶については、生徒会を中心に朝のあいさつ立番などをおこない、少しずつ改善しているが、言葉遣いに関して全校生徒で考え実行できる取り組みは不十分であった。 ・ほとんどの寮生はあいさつや時間を守ることが出来たが、一部の生徒では指導の効果があまりみられなかった。	B	・生徒会を中心に、挨拶や言葉遣い、公共での振る舞いなどについて生徒自身が考え行動できる企画を計画する。 ・寮生の生活時間を遵守する取組については、掲示物等で啓発し、さらに個別指導や面談を通して改善を促す。	1	2	1			・コロナ禍で他者との交流の機会が少なくなり、コミュニケーションがうまく取れない生徒も増えている。マスクをしていて表情もわかりにくい。挨拶や言葉遣いだけでなく声のトーンの大切さもしておくと思う。
	② 生徒の自己理解の促進を図り、前向きな学校生活に繋げる。	・心身の健康問題について、校内で情報連携し速やかに対応を図る。 ・社会人としての必要な資質の育成と基本的習慣を確立させる。(服装・頭髪・携帯電話についての規則を守る) ・妥協のない態度で授業を行い、授業を大切に、ルール守る態度を育成する。	生指 保健	・「すいすい健康ファイル」を活用し、生徒自身の健康管理に繋がった。 ・心のアンケート等により健康問題の早期発見・早期対応に努め、必要時にはSCや外部機関へ繋げることができた。 ・部活動においては、計画的に活動し上位大会への出場やコンクールでの入賞など、満足できる結果を残した部もあった。	B+	・心身の健康問題に関して、専門家や地域との連携を深め、「チーム学校」としてよりよい運営をすることに、一層努める。 ・部活動の加入率を高めるために、部活動紹介において、より明確な内容(活動時間・場所・活動内容・部活動体験内容など)を生徒へ周知する。	4					・学校の雰囲気は良くなっていると思う。自転車のマナーについてはやや改善すべき点がある。「交通安全教室」の取組は評価できる。 ・朝の挨拶運動を生徒会自ら行っていることは大変良いと思う。これからも継続してほしい。
	③ 身だしなみ、時間を守る、場に相応しい行動をとるなど、ルール、マナーを守る態度を育成する。		生指 各科	・服装については改善傾向である。また、校内での携帯電話使用ルールも概ね守られている。 ・「授業を受けるための5力条」を確認しながら、日々の授業を大切にすることについて共通認識のもと、指導を行うことができた。	B	・定期的な頭髪服装検査は継続しながら、一部の生徒については個別指導を増やして対応する。 ・校内での携帯電話の使用可能場所をより一層明確にする。	2	2				
3. 望ましい勤労観を力に育つ	① 将来の進路を見据えた資格取得に向けて、情報提供や指導体制を整備し、結果に繋げる。	・資格試験の情報周知を図り、受験案内や申請の支援を行う。また、資格試験用教材の更新と充実を図る。 ・生徒に目的意識を持たせ、資格取得率の向上を目指す。 ・会社訪問を計画的に行い、情報収集と企業との関係強化を図る。 ・生徒の発達段階に応じたガイダンスやセミナーなどを計画・実施する。 ・保護者・担任・関係機関との連絡を密にし、進路相談を早期から開始する。 ・進路に関する最新の情報を生徒・保護者・担任へ提供し、HPの更新を行う。	進路 各科	・資格試験用教材の更新は順調に進めることができた。 ・免許・資格取得への取り組みについては計画的に行い、高い合格率を上げることができた。	B+	・引き続き担任と協力して資格取得の支援を行う。 ・個別指導を実施することで、成績上位者の資格取得率の向上を目指す。	1	3				・さまざまな教育活動を通して、社会人として社会生活を送るうえで必要とされる資質や、物事に積極的に取り組む意欲など、大切なものを育もうとしている様子が窺える。
	② 生徒の個性や適性、能力に応じた計画的なキャリア教育を推進する。		進路 各科	・進路ガイダンスやセミナーについて、計画通り実施することができた。 ・食品流通科による企業見学などキャリア教育が充実しつつある。 ・コロナ禍であったため、県外企業の訪問はできなかった。	B	・ガイダンスやセミナーを実施する時期が適正かどうか、さらに検討する。 ・企業見学の実施時期と学校行事の摺り合わせをする必要がある。 ・来年度は企業見学を計画したい。	4					・スマホの使用に関して、警察と連携した「情報モラル教室」の実施は良い取組である。 ・資格取得に向けて大変努力していると思う。合格率向上に頑張ってもらいたい。
	③ 生徒・保護者への時宜を得た進路情報を提供し、早期の進路目標設定を支援する。		進路 各科	・保護者・担任・関係機関と連携し、内定に至ることができた。 ・過去最高の求人票を受け付けたが、遅れることなく情報整理・提供できた。 ・進路だよりは計画的に発行できなかった。	B	・引き続き進路情報を速やかに発信し、生徒の進路指導に組織で対応する。 ・進路だよりの発行方法の変更について検討する。	4					・進路を決定するうえでたくさんの情報が必要である。今後も進路ガイダンスやセミナーに生徒が積極的に参加できるよう支援してもらいたい。 ・進路に関して、生徒のモチベーションが上がるような取組を期待したい。
4. 人権教育、道徳教育、特別支援教育を推進	① 校内組織及び支援体制を充実し、研修や啓蒙など計画的な取り組みを行う。	・人権・同和教育LHRを計画的に実施し、人権・同和教育だよりを発行する。 ・教職員や保護者を対象に、人権・同和教育の研修会を実施する。 ・関係機関と連携し、生徒の進路保障に努め、自己実現を支援する。 ・互いを尊重し他人を思いやる心を培い、差別を許さない態度と実践力を育てる。	人権同 教務	・予定通り人権・同和教育LHRを実施した。また、人権・同和教育だよりを定期的に発行した。 ・教職員研修は、生徒指導部や保健部の研修で代替することで実施できた。	B	・人権・同和教育LHRだけでなく、外部講師による講演会を計画する。 ・教職員のみならず保護者も参加できる講演会を計画する。	4					・(保護者も参加できる講演会を踏まえて)さまざまな教育活動に保護者を積極的に巻き込んでどうか。そうすることで、PTA活動に積極的に関わろうとする保護者も増えるのではないかと。
	② あらゆる教育活動をとらえ、人権意識・共生意識を育み、社会性を身につけさせる。		人権同 教務	・採用試験や受験の面接の終了ごとに質問事項のチェックを行った。 ・教育センター等における研修での情報提供を適宜行い、生徒の人権意識の育成を図った。	B	・進路指導部や学年会との連携を強化し、採用試験のチェックを実施する。 ・生徒の人権意識向上に繋がる情報提供を引き続き実施する。	4					・コロナ禍で行動制限がある中で、いろいろな企画を実施し、すばらしいと思う。これからは浜水のよさを地域の人に広く知ってもらいたい。
5. 水産・海洋教育を担う地域と連携する学校づくりの推進	① 魅力ある教育活動を積極的に情報発信し、生徒募集に努める。	・体験入学、ホームページ等を充実させ、生徒募集を活性化させる。 ・幼保園・小中学校・特別支援学校と体験乗船や合同実習等の交流を行う。 ・課題研究において、地域との連携を図り、商品開発や後継者の育成をはかる。 ・浜田市場見学や企業見学ツアーを実施し、地域との連携を深める。	総務 各科	・体験入学は2度実施した。アンケートの結果を見ると概ね好評であった。 ・ホームページのブログ発信の記事が多数更新されたが、部署によって更新の頻度に差がみられた。	B-	・体験入学参加者が増加するよう、情報発信の方法や体験入学の内容を見直す。 ・SNSの活用を含めて、HPの見直しを各方面と連携しながら実施する。	4					・(生徒募集について)地域の人に学習内容や取得可能な資格などももっとPRしてはどうか。
	② 地域と学校との連携をよりいっそう深め、開かれた学校づくりを推進する。		各科	・コロナ禍でも、園児や中学生の体験航海や公民館、小学校と協働した活動ができた。 ・今年度も「ノドグロ給食」に携わり、本校の生徒が小学校に向き出前授業を行った。	B+	・地域の学校のニーズに対応した体験学習や出前授業を実施する。 ・生徒が積極的に地域に向き出前授業を計画する。	2	2				・「ノドグロ給食」はとても好評だと聞いている。これからはいろいろと計画してほしい。
6. 新しい時代に対応した取り組みの展開	① 教職員のICTスキルの向上を図り、授業改善や業務改善に繋げる。 ② 学校運営協議会の設置	・教員研修などを通じ、ICTスキルの向上を図り、授業改善に繋げる。	教務	・教員研修を定期的実施することでICT機器を活用した授業のきっかけをつくることができた。 ・先進校への授業見学および情報交換を行い、その後の授業改善に繋げることができた。	B	・校内研修や先進校視察を計画的に実施し、さらなる授業改善を推進する。 ・学校運営協議会と連携し、魅力ある教育活動を発信し生徒募集に努める。	3				1	・ICTについては、教員がよく頑張っていると感じた。授業で活用することで生徒の学びの幅を広げてほしい。